

ラウンドテーブルI オーガナイザー 長尾篤志（東京学芸大学）

テーマ	高等学校数学科における「授業研究コミュニティ」の形成
発表者	西村圭一（東京学芸大学）、長尾篤志（東京学芸大学）、成田慎之介（東京学芸大学）、佐藤章（福島県立ふたば未来学園高等学校）、中逸空（東京学芸大学附属小金井中学校）、熊倉啓之（静岡大学）、伊藤卓哉（愛知県総合教育センター）、佐々祐之（北海道教育大学）、今中勇希（北海道札幌月寒高等学校）、塩月孝弘（大分県教育庁高校教育課）、山田誠司（大分県教育庁高校教育課）
趣旨及び概要	<p>海外では、日本を起源とする how to learn 型の授業研究を展開しようとするが、how to teach 型の授業研究にとどまってしまうケースが多く報告されている。いわゆる教師の指導法に焦点があり、子どもがどう考え、どう学んでいくかといった学びのプロセスへの注目がなされないということである。日本の小学校算数科や中学校数学科の「授業研究」は、日本特有の「授業研究文化」の中で成立していることの証左と言えよう。日本の高等学校数学科で行われている「研究授業」が how to learn 型にとどまりがちな背景には「授業研究文化」が醸成されていないことにあると考え、3年間にわたり「高等学校数学科における「授業研究コミュニティ」の形成を目指す研究を展開してきた。本ラウンドテーブルでは、その具体的な事例を示し、コミュニティの拡大に向けた取り組みについて議論する。</p>